

◆宇土櫓五階櫓下石垣のこれまでの検討経過

【平成30年度】

10月18日：文化財修復検討部会
宇土櫓石垣の安定性について

- ・五階櫓下について積み直しは必要ないが、西面の部分的な孕み部は補強を検討する
- ・続櫓下について積み直しを含めた石垣の復旧を検討する

【平成31(令和元)年度】

7月12日：石垣・構造合同WG

- ・宇土櫓周辺石垣履歴・被害状況の提示

9月13日：石垣・構造合同WG

・宇土櫓（五階櫓下）非解体による補強方法の工法比較

→非解体による補強方法は押さえ盛土工法に決定

11月7日：石垣・構造・建築合同WG

- ・重要文化財建造物宇土櫓五階櫓の修理方針について

→宇土櫓五階櫓は全解体を見据えた解体修理で決定

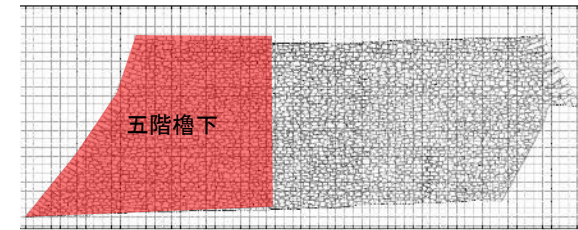
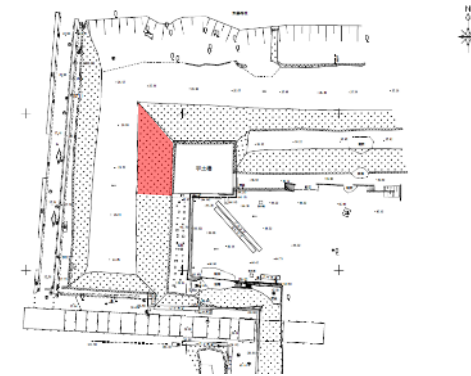
12月25日：石垣・構造合同WG

・宇土櫓（五階櫓下）の押さえ盛土工法について

→盛土の影響範囲を再検討する

3月26日：文化財修復検討委員会

→宇土櫓（五階櫓下）合同WGで検討し直す



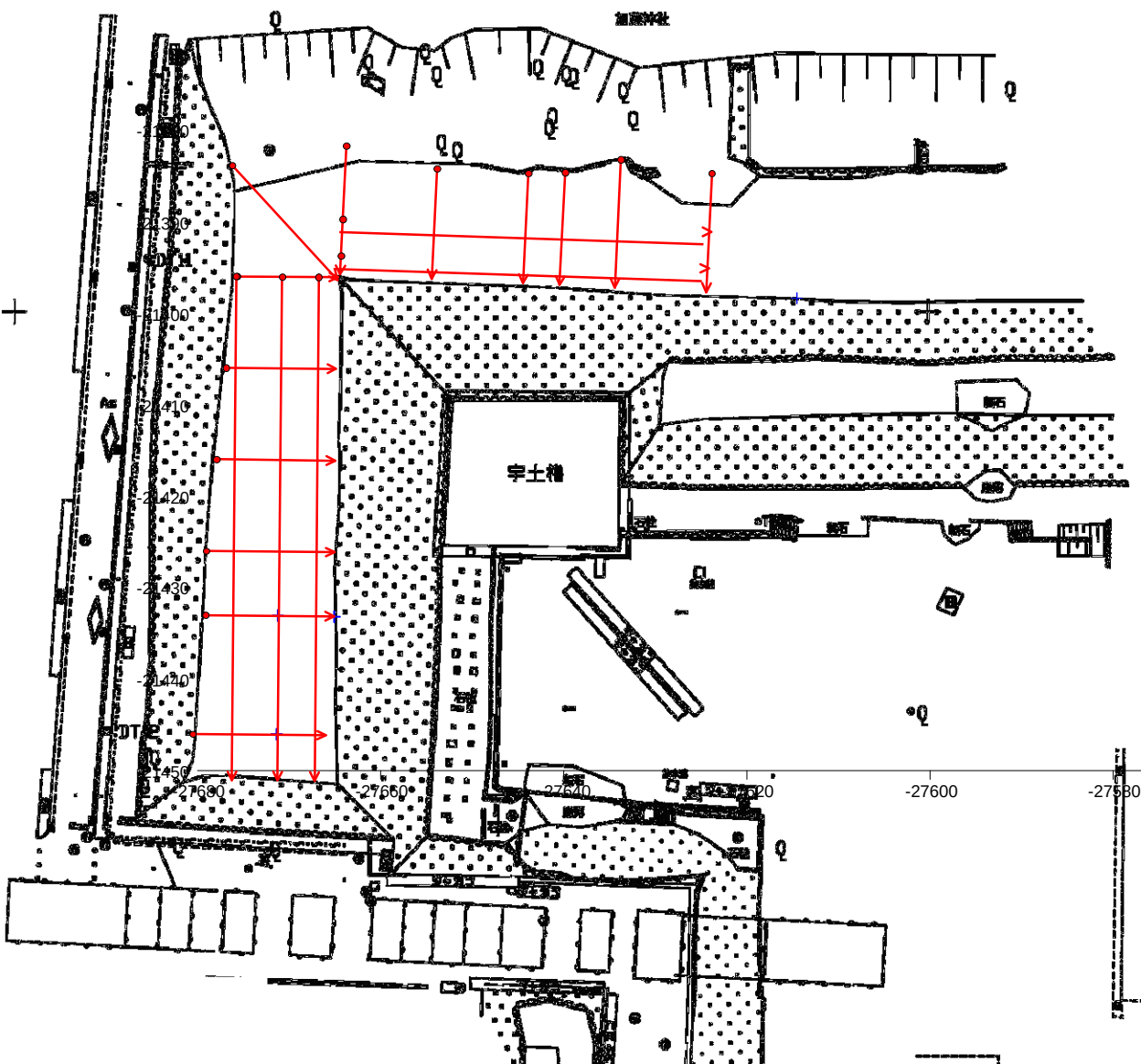
【令和2年度】

◆宇土櫓五階櫓下部石垣補強の検討方針

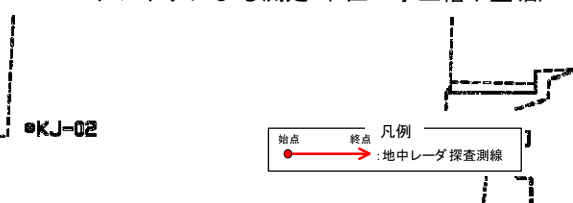
- ① 盛土補強に代えて、宇土櫓五階櫓解体保存・組立工事のための素屋根の仮設構台を用いて、五階櫓下部石垣の変形部分を暫定的に押える。
- ② 五階櫓解体保存・組立工事完了(2032年度予定)までの間に五階櫓下部石垣の変状調査結果等も踏まえながら、最終的な押さえ工法の検討を行っていく。

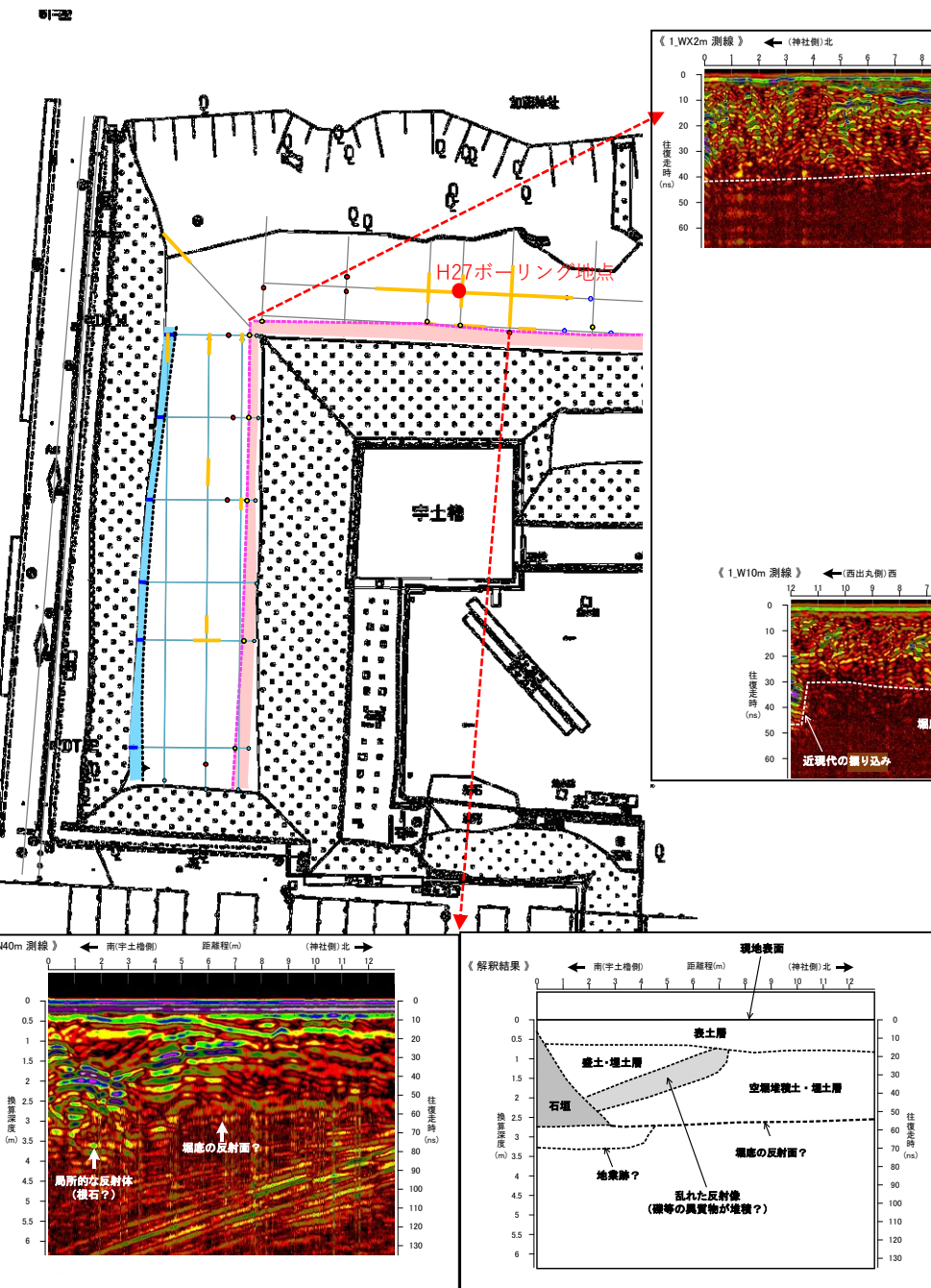
2020. 12. 15提示資料

【調査目的】 石垣根石の位置、深さや、空堀の形状等を確認するために実施した



200HSアンテナによる測定（1区：宇土櫓下空堀）





凡例	
【探査記録】	【遺構等推定範囲】
傾斜面	堀跡の法面、微高地等
乱れた反射像	栗石層、盛土、埋土、石材の堆積、等
高まり状の反射面	埋没石垣土壁状構造物等
掘り込み状の反射面	近現代の遺構、等
局所的な反射体	

【調査成果】
○宇土櫓北面石垣 (H442)、西面石垣 (H443)
現状の石垣底部から前面に約2~3m、現地表下約3m地点で根石を確認。
○宇土櫓下空堀
H443前面では現地表下約4mでA so-4砂質土となり、堀底と考えられる。
H442前面では現地表下約3mで堀底と考えられる。

